

施策評価シート (平成31年度の振り返り、総括)

作成日 令和2年 06月 19日

施策 No.	5	施策名	まちの活力再生・魅力創出プロジェクト
主管課名	都市計画課	電話番号	0285-83-8151
関係課名	都市計画 新庁舎周辺整備室 商工観光 財政 農政 スポーツ振興 情報政策		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度見込
人口	人	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324	80,200

施策の意図	若い世代が魅力を感じ、担い手となって未来をともに描いていけるような、新たなもおかの元気を創出する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客入込数は、県調査によるデータ。(平成31年1月～令和元年12月)</li> <li>撮影候補地数、放映件数、撮影の問い合わせ件数は、観光協会データによる。</li> <li>競技力向上成果表彰者数、総合型地域スポーツクラブ会員数は、スポーツ振興課の集計により把握する。</li> </ul>								
成果指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度基本計画目標値
観光客入込数	人	2,845,313	2,865,281	2,865,612	2,912,127	2,990,649	2,960,527	3,177,751	3,000,000
撮影候補地数	箇所			53	53	53	53	67	70
放映件数(累計)	件			6	26	40	53	59	40
撮影の問い合わせ件数(累計)	件			30	80	130	183	238	180
競技力向上成果表彰(年者数)	人			88	95	74	78	76	98
総合型地域スポーツクラブ会員数	人			0	291	312	263	281	350

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	
-------------------------	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（１）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

観光客入込数は、年々増加しており令和元年是3,177,751人で、平成29年と比較して187,102人（106.2%）の増加となっている。なお、平成30年は前年度より30,122人減少しているが、これは夏祭大花火大会の観光客入込数が台風の影響で減少したことによるものである。

平成29年 2,990,649人（前年比 102.7%）

平成30年 2,960,527人（前年比 99.0%）

令和元年 3,177,751人（前年比 107.3%）

○フィルムコミッションの推進

撮影候補地数については、平成29年度からでは令和元年が67箇所まで14箇所増加した。また、放映件数及び撮影の問い合わせ件数も増加している。

放映件数 平成29年度 40件 令和元年度 59件（19件増）

問い合わせ件数 平成29年度130件 令和元年度 238件（108件増）

○スポーツによるもおか創生の推進

・真岡市体育協会年度内表彰者については、令和元年度は76人で、平成29年度と比較して2人増加している。

・統合型地域スポーツクラブ会員数については、令和元年度は281人で、平成29年度末と比較して31人減少している。

（２）近隣他市との比較

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

観光客入込数は、県内14市中、平成27年から平成30年が10位、令和元年度が9位であった。

○コミュニティFM事業

・県内では既に栃木市（FMくらら）、宇都宮市（ミヤラジ）、小山市（おーラジ）、下野市（FMゆうがお）が開局した。

・ミヤラジは民営であるが、3局は本市と同様の公設民営方式である。

（３）住民期待水準との比較

○中心市街地のリノベーションの推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「都市基盤の整備」は、29年度：19.1%、30年度：17.4%、令和元年度：16.2% 前年比 1.2%減 39項目中10位

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「観光の振興」は、29年度：8.8%、30年度：8.9%、令和元年度：5.9% 前年比 3.0%減 39項目中27位

○スポーツによるもおか創生の推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「スポーツ・レクリエーションの振興」は、29年度：8.1%、30年度：7.9%、令和元年度：8.4% 前年比 0.5%増 39項目中23位

○廃校施設等を活用した地域活性化の取組

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「廃校施設を活用した地域活性化の取組」は、29年度：15.5%、30年度：11.7%、令和元年度：13.6% 前年比1.9%増 39項目中13位

31年度の  
評価結果

## 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

### 1. 中心市街地のリノベーションの推進

・中心市街地のうち台町地区を対象に、まちづくりの整備手法に係る説明会の開催や、地域の現況調査、住民アンケート等を実施し、地域の課題抽出と住民意向の把握に努めた。意向調査では、台町地区の49.4%が「整備が必要」と回答している。  
・再整備を行ってリニューアルした木綿会館及び久保記念観光文化交流館を中心としたイベント等の開催により、中心市街地の賑わいを創出し、活性化を図った。

### 2. まちのステーション整備の推進

・平成31年度に、新庁舎周辺整備基本構想を策定し、令和元年度には、基本構想を基に、民間活力導入可能性調査として、従来型の公共事業方式と、PFI等の公民連携事業方式での財政負担を試算し、最も有効な事業手法の検討を行い、あわせて、新庁舎周辺整備基本計画を策定した。

### 3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・本市の3大観光資源である「いちご」「SL」「真岡木綿」を活かした、いちご染体験やSL運転体験など、DCを契機として企画したイベントをレガシーとして継承していく。  
・いちごサミットモニターツアーを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策により、中止となった。

### 4. フィルムコミッションの推進

・市及び観光協会のホームページへの掲載や「栃木フィルムコミッション」への撮影地登録の他、テレビ局への営業活動、パンフ作製、イベント開催時にPRブースを出展し活動内容を紹介するなど、積極的な情報発信に努めた。

### 5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・優先交渉権者を選定した旧山前南小、旧中村東小、旧中村南小については、賃貸借契約の締結に向けて利活用方法の事業化に関する協議を実施した。  
・事業化を推進するため、事業化に伴う費用の一部補助について検討を行い、予算化を実施した。

### 6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットの開催に向け、県、中央会、全農、主要JAなど20名のオール栃木体制で、組織した実行委員会を5回、実行委員会の下部組織で若手、女性等28名で具体的な開催内容等の検討を行った専門部会を8回開催し、実施計画を策定した。また開催までの機運醸成を図るため、東京駅、上野駅、大宮駅での真岡産とちおとめのスイーツの販売や有楽町駅前でのステージイベント、いちごの無料配布、Yahoo社員食堂や福岡岩田屋三越でのPR活動を実施した。

なお、いちごサミットについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、延期することとなった。

・本市の魅力発信し、体感・実感・魅力への気づきを促進させ、交流人口の増大や本市への移住・起農につなげる「真岡式グリーンツーリズム」構築のため、農泊推進に関する調査・研究を実施するとともに、3月にリニューアルした二宮尊徳物産会館（道の駅にのみや）の指定管理者である（株）二宮金次郎商店と連携し、本市産いちごを活用した新商品（いちごタルト、いちごクロワッサン）を開発・販売した。

なお、プロモーション活動及び滞在プラン・体験プログラムの調査・研究のため実施予定であった「第2回真岡いちごウオーク」「全国いちごサミットモニターツアー」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

### 7. スポーツによるもおか創生の推進

・スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、平成23年度から整備を進めている総合運動公園北ブロック（13.7ha）の整備が完了し、令和元年度から南ブロック（12.9ha）の整備に着手した。

・栃木SC支援事業として、真岡市民デーの開催や親子サッカー教室を実施するなど、プロスポーツ界で活躍する選手と直接交流できる機会を設けた。（真岡市民デー参加320名、親子サッカー教室参加163名）

・競技力の向上とスポーツに触れる機会を提供するため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援した。

総合型地域スポーツクラブ「もおかスポーツクラブ」

会員数281名 スポーツ教室の開催 10種目172回、参加延べ人数4,179人

スポーツ少年団 41団体登録 大会参加（郡大会以上）交付金の交付 10件

### 8. コミュニティFM整備事業

・令和2年度の開局に向け国との協議を進めた。また、運営事業者と協定書を締結し、予備免許の申請を行った。

31年度の  
評価結果

### 3. 施策の課題認識と改革改善の方向

#### 1. 中心市街地のリノベーションの推進

・中心市街地の活力再生と魅力の創出に向け、低未利用地や空き家、空き店舗等の有効利用を図るとともに、地域と話し合いながら、地域で必要とするまちなか居住のための基盤整備や道路と街並みが調和した沿道整備などの様々な事業手法を検討し、取りまとめた中心市街地リノベーションの基本的な構想を基に、整備の優先順位を考慮しながら、中心市街地リノベーション基本計画の策定に向け検討していく。

また、主要幹線道路の未整備地区に対しては、地域説明会を開催し、意向を調査しながら、必要となる整備手法を検討していく。

・リニューアルした木綿会館及び久保記念観光文化交流館を中心としたイベント等の開催により、中心市街地の賑わいを創出し活性化を図る。

#### 2. まちのステーション整備の推進

・新庁舎周辺整備基本計画を基に、要求水準書等を作成し、事業者の募集手続きに着手し、事業の進捗を図る。

#### 3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・SLキューロク館や久保記念観光文化交流館、真岡木綿会館などへの回遊させる取組みを展開し、賑わいを創出して行く。

#### 4. フィルムコミッションの推進

・ロケーション撮影地の掘り起こしや情報収集に努め、メディア等に積極的に情報発信して行く。

・これまでに放映された場所に看板等を設置するなどPRに努める。

#### 5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・優先交渉権者を選定できなかった旧東沼小については、利活用方法の再検討を実施する。

・事業化に伴う費用の一部補助について、優先交渉権者と協議を行い、実施方針を策定する。

#### 6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットの開催に向け、実行委員会や専門部会において、国・県からの開催制限のガイドラインに基づき、開催時期や新型コロナウイルス感染症対策を検討しながら、準備を進めていく。

・本市の魅力を発信し、体感・実感・魅力への気づきを促進させ、交流人口の増大や本市へ移住・起農につなげるため、引き続き、プロモーションイベントを開催するとともに、農泊推進に向けた滞在プラン・体験プログラムの開設準備など、真岡式グリーンツーリズムの構築を推進していく。

#### 7. スポーツによるもおか創生の推進

・総合運動公園整備の推進を図る。（南ブロック12.9haの整備）

・本市のスポーツ・レクリエーションを推進するため、基本的な方向性を定めた「真岡市スポーツ推進計画」を令和元年度に策定し、スポーツによるもおか創生を推進して行く。

#### 8. コミュニティFM整備事業

・地域に密着した話題や行政情報等を提供することで地域のコミュニケーションを成立させ、まちを元気にするとともに、防災・災害時のメディアとして、まちの安全・安心を担うためのコミュニティFM開局を目指す。また、国との協議を進めるほか、機器設置工事及び本免許の申請を行い、新庁舎開庁後の開局を目指す。

31年度の  
評価結果

補足事項